

講義名	社会参加のための日本語教育	講座担当者	南浦涼介(東京学芸大)
単位数	6	講義形式	講義、ワークショップ
実施日時	2019年12月21日(土) 10:30~16:10	実施会場	郡山市中央公民館 ZOOMによる同時受講及び録画による受講も可

講座の目標及び特に目指す受講者の知識・技能・態度

講座の目標

社会参加のための日本語教育を、外国人児童生徒のキャリア形成、学校づくり、授業実践の視点から考えることができる。

特に目指す受講者の知識・技能・態度

知識 ① 子どもたちが社会と関わりをもち、キャリア(進学・就職、自己実現)を形成する上で、日本語の発達がどのような役割を果たすか理解している。

態度 ① 子どもたちが、将来どのように社会の一員として生活するのかをイメージして、日本語学習支援の内容や方法を考えて実践しようとする。

※①は、本研修で設定した養成を目指す「資質・能力」の番号である。「[自己評価シート](#)」参照

講座内容

- 1 インTRODクシヨンー研修のテーマ
- 2 今日の研修で向上が期待される資質・能力
 - (1) 今日の日標
 - (2) 今日の流れ
- 3 パート1 社会につながる力を学校でどう育てるか？

〈ワークショップ〉野村達雄さんの子ども時代のエピソードを読み、グループで話し合いながら「野村さん成功『鍵』」を見つける。

 - (1) 「ポケモンGO」開発者の野村達雄さんから考える
 - (2) 伝記を読み、共有し、考えるー野村さんの成功の鍵は人生の中にどのように埋め込まれているのか？
 - (3) 野村さんの成功の鍵は何か？
 - (4) 野村さんの成功は、野村さんだからできたのか？他の外国にルーツをもつ子どもでもできるのか？
- 4 パート2 社会につながる力を生み出す学校づくりと外国人児童生徒

〈ワークショップ〉グループで話し合いながら、提示された4つのエピソードの中に共通している「分断された世界に変革を起こす学校の仕掛け」をあぶりだす。

 - (1) A 小学校の取り組みから考える
 - (2) 「学校を変える」という点からエピソードにある共通点は何か？
 - (3) エピソードの整理と概念化
 - ① 校内放送のエピソードから可視化と承認の関係を理解する。
 - ② 教務主任のエピソードから可視化と承認の関係を確かめる。
 - ③ 他のエピソードをグループで概念化する
 - (4) マイノリティとマジョリティをつなぐ「可視化」効果
 - (5) 「分断」から「つながり」へ、「排除」から「承認」へ、「自己否定」から「自尊」へ、そのためには？
 - ① 社会正義の視点1 再分配
 - ② 社会正義の視点2 承認
 - ③ 社会正義の視点3 代表の再定義
- 5 パート3 外国人児童生徒が社会につながるために 日本語の授業で何ができるか？
 - (1) 実際の指導場面を想定して
 - ① 漢字からの指導を考える
 - ② 未来のルールを考える
 - ③ 推測しながら対話する
 - (2) 「学力」とは何だろうか？
 - ① 算数の問題から
 - ② 学校で育てる能力の「深さ」の分類

- (3) 野村さんのような力を日本語学習者も獲得するためには？ 実践の分析
 〈ワークショップ〉毒餃子事件をテーマにした実践はどのようなゴールを見据えているか、この実践で子どもたちはどのような力を得たか、子どもたちの「日本語の壁」をどのような支援で乗り越えたと考えられるか、グループで話し合う。
- ① 実践を分析してみよう—餃子事件の犯人は誰か？
 - ② 分析の結果の共有
 - ③ 「日本語の壁」を越えて学習への参加するために
- (4) 学習に必要な言語の力とは
- ① カミズの学習に必要な言語の分析
 - ② 「いい授業」は常に文脈が存在し、次第に抽象度が上がる
 - ③ 餃子の授業における「文脈のつくりかた」「抽象度の上げかた」
- (5) こうした実践を、いつ行うか？ カリキュラムマネジメントとして
- (6) 「高次の学力」はなぜ必要なのか？
- ① 今求められる学力として
 - ② 「高次の学力」は、外国にルーツを持つ子どもをどう救うか？

6 振り返りと課題

成績評価方法

講義への出席後または録画による講義の視聴後、課題を提出する。
 他の講義と併せて、80%の出席と課題の達成度60%で修了証を授与する。

〔課題〕

「社会参加のための日本語教育」を考えていくうえで、どのようなことが大事だと思ったか、重要だと思うキーワードを2～3挙げる。また、自身の現場で具体的にどのようなことを行っていきたいと思うか、上に挙げたキーワードを文中に使いながら、自分の思ったことを説明するレポートを提出。

参考書

- 石井英真（2015）『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影（日本標準ブックレット）』日本標準，2015年。
- 齋藤ひろみ・今澤悌・内田紀子・花島健司（2011）『外国人児童生徒のための支援ガイドブック—子どもたちのライフコースによりそって』凡人社。
- 野村達雄（2017）『ど田舎生まれ、ポケモンGOをつくる』ShoPro books
- 前田康裕（2016）『まんがで知る教師の学び これからの学校教育を担うために』さくら社
- 前田康裕（2017）『まんがで知る教師の学び 2—アクティブ・ラーニングとは何か』さくら社
- 前田康裕（2018）『まんがで知る教師の 3—学校と社会の幸福論』さくら社
- 前田康裕（2019）『まんがで知る未来への学び—これからの社会をつくる学習者たち』さくら社
- 前田康裕（2019）『まんがで知る未来への学び 2（教師も変革を起こす時代）』さくら社
- フレイザー， N.， 向山恭一訳（2013）『正義の秤—グローバル化する世界で政治空間を再想像すること』法政大学出版局。